

産地戦略

実施主体 栃木県
都道府県 栃木県
対象地域 さくら市
対象品目 大豆

実施期間 令和5～9年度



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

大豆「里のほほえみ」に品種転換を行ったが、収量及び品質が不安定である。その要因として、大豆栽培では一般的に土壌分析が行われておらず地力に応じた施肥設計が図られていないことが考えられる。また、地力が低い場合には、化学肥料が多投入されるものの目標収量が得られないことも多い。水田土壌可給態窒素の簡易・迅速評価法を用い土壌診断を行い、低地力圃場においては、従来の化学肥料施用の一部を豚糞堆肥に替えて利用する。堆肥については、ペレット堆肥を活用し、ブロードキャスターを用いて散布することで省力化が期待できる。これらの技術が確立できれば大豆生産の安定化と省力化の両立が期待され、本県大豆生産者に広く普及することができる。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名			施肥	播種		病害虫防			収穫				
技術名			狭畦栽培										

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名			施肥	播種		病害虫防			収穫				
技術名			豚ふん施	狭畦栽培									

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R9	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)		▶	
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	1	▶ 18	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)		▶	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)		▶	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境		▶ 豚ふん堆肥の活用 可給態窒素簡易迅速評価法等に基づく施肥設計	化学肥料使用量の削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学肥料使用量の削減	20	▶ 10	地力に応じて堆肥投入量を増減する

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

化成肥料に比べ、堆肥は体積、重量が大きいため、効率的な散布方法を確立する。
環境負荷低減の重要性の理解促進
資材費削減による収支へのメリット理解促進

関係者の役割

関係者名	塩谷南那須農業振興事務所	JALおのや	JALおのや麦大豆部会	
役割	・当該技術の検証	・当該技術の広報、生産部会 員への波及	・当該技術の実証	

その他